

＜和歌山県初の市街地再開発事業『けやきガーデン』誕生の経緯＞

この場所は1929年10月（昭和4年）、昭和倉庫株式会社（初代表取締役社長 竹中源助氏）によって、米・穀物、綿布・繊維の倉庫として創業され、赤レンガ倉庫2棟が建設されました。

頑強な赤レンガ倉庫は、太平洋戦争の空襲時にも奇跡的にほとんど原形をとどめ、被災者の救護の場所として活用されました。

今回、その赤レンガ倉庫の土地を活用し、けやき大通りという和歌山市のメインストリート及び中心市街地を活性化させる為に、和歌山県内第一号の市街地再開発事業として民間と和歌山県、和歌山市との連携によって、昭和倉庫が土地を提供する形で商業棟、住宅棟、ホテル棟の3つから構成される『けやきガーデン』が誕生しました。

この完成を機に、これに続く再開発事業が実現し、和歌山市のけやき大通りが、JR和歌山駅から和歌山城や市街地中心部へとつながる『県庁所在地のシンボル空間』となり発展に結びつくよう期待されています。



旧赤レンガ倉庫に使用されたレンガと木の柱を再活用して作ったモニュメントと車止め

＜官民共同による約36億円のまちづくり事業＞

この市街地再開発事業は、官民協力によるまちづくり事業です。

事業費は商業棟、住宅棟、ホテル棟合計で約36億円、行政からの補助金が約11億円、民間資金が約25億円です。

住宅棟「ポレスターけやき大通り」は、株式会社マリモが分譲を行い、78戸全部が竣工前に完売しました。

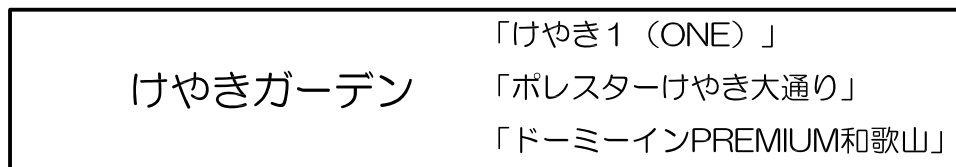
商業棟「けやき1（ONE）」は、昭和倉庫株式会社が運営し、1階が飲食と商業サービス、2階が医療モール、3・4階が事務所となっており全室が入居又は契約済みとなっています。

ホテル棟は、昭和けやき興産が建設し、共立メンテナンス株式会社が「ドリーミンPREMIUM和歌山」として運営し、4月から開業オープンします。

この事業によって街なかに人口が定着するとともに、商業サービス施設や宿泊施設、業務施設が立地し、新たに50人以上の雇用が生まれ、多くの人々が利用するにぎわいの拠点となりつつあります。

＜まちづくりのコンセプト＞

『けやきガーデン』・・・多くの人々が集まり、交流が生まれ、にぎわいを生み出す場所、地域活性化拠点の創造



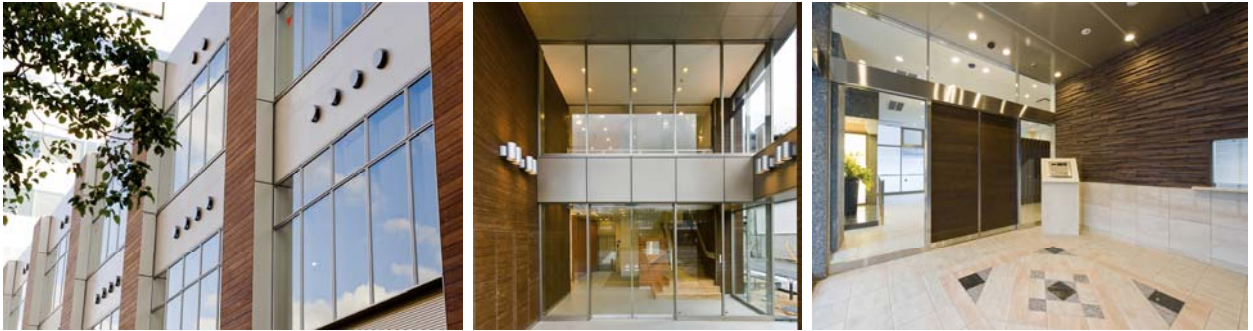
人が集まり、にぎわう場所の創造

地域活性化拠点の再生・創造

情報発信できる場所の創造

<建物デザインの特徴>

県下唯一の不燃化技術使用の紀州間伐材を多用し、和歌山らしい景観・内部空間の創出



和歌山県下初の本格的な屋上緑化等による環境への配慮・省エネ建物



敷地を3分割し、それぞれの建物に統一感を持たせ、景観に配慮したデザイン



安全安心に配慮した地域貢献の空間づくり
(新たに歩道設置、バリアフリー建物、子育て支援空間)

